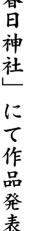
# 第二十二回春日万葉の森歌垣大会 短

歌 俳句作品集



。場所 和歌山県海南市。日時 令和二年八月一日春日風鈴まつり





# 令和二年度第二十二回 春日万葉の森歌垣大会を記念して

春日万葉の森歌垣大会

長 花 畑

(海南文化協会会長)

が出没し始め、あっと言う間に全国各地に蔓延しました。

元号が変わり初めての正月を迎え一入目出度い気分が抜けきらぬうちに、新型コロナ肺炎

春日万葉歌垣大会も、今年は如何なることやと、案じておりましたが、皆様方の熱い思

で、多くの作品を寄せて頂き、短歌113首・俳句127句を数え、ここに無事に大会を開

催できることになり、大変喜んでいます。

げます。

送りいたします。

には敬意を表します。また、紙一重で選から洩れた作品にも心の片隅より、 日常の喜び哀しみ、大自然との対話 社会への鋭い視線など、感性豊かに表現された作品 賞賛の拍手をお

も関りませず、ご来海下さいまして、きめ細かくご丁寧な選考をして頂き、厚く御礼申し上

また本大会第一回目より、作品の選考に当たって下さっている選者先生方にはコロナ禍に

感謝を申し上げ、簡単ではございますが、お祝いと、御礼の言葉といたします。 歴史に残る春日万葉歌垣大会が、この様に多くの方々のお力で続けられています事に深く

- 1 -

11







春日神社参道沿いに建つ「一入の句碑」 を明神社参道沿いに建つ「一入の句碑」 を明神社を弱めていた十 を明神社を変めていた十 を明神社を変めていた十 を明神社参道沿いに建つ「一入の句碑」

明

賞

浄

賞

寒雷や塔を貫く心柱

水音の日毎豊かに蕗の薹

三重県紀北町 奥川

純子

和歌山県岩出市 土江

江 祥元

直

賞

E 賞

子には子の小さき四手白魚汲む

和歌山県かつらぎ町 野口

城

簾巻く水平線の見ゆるまで

和歌山県海南市

前田

長徳

初景色画く一色の古代墨

福井県あわら市

木幡

嘉子

勤

賞

- 4 -

# 一入賞(春日の森賞)

# (海南での俳諧の祖と云われる「一入」)

	,
_	
7	
<u>₩</u>	
賞	
ĺΞ	
八賞は	
$\neg$	
_	
λ	
分	
子 顕 刻	
頭	
部	
迖	
ᄍ	
会」の石倉實氏	
の	
の石倉寅	
꿏	
启	
實	
兌	
T/	
$\overline{}$	
_	
λ	
分	
工	
末	
裔	
<u></u>	
L	
4	
i) H	
μĹ	
ᄬ	
5	
れ	
丰	
49	
9	
U	

夜桜の白きひとひらまたひとひら	家ごとの灯りの色や朧月	山桜新人教師迎へけり	ダム湖より溢れ落ちたる花筏	病む母を頼み逝く父虎落笛	産卵すとんぼに水のゑくぼかな	花片を籠に花咲爺の如	うすれゆく靄に現はる花の雲	歳一ついただいて飲む福茶かな
静岡県富士市	愛知県東浦町	愛知県日進市	和歌山県和歌山市	和歌山県海南市	千葉県千葉市	和歌山県和歌山市	和歌山県かつらぎ町	和歌山県海南市
窪田かづ江	伊藤 京子	嶋良二	太田 妙子	前田 汐音	露木 伸作	天倉都	下村ツヤ子	上ノ山陽子

16 里の灯の消えて蛙の夜となる	15 初景色画く一色の古代墨	木幡 嘉子(福井県あわら市)	14 風薫る大和三山雲ひとつ	13 石仏や空に雲雀を遊ばする	堀ノ内和夫(奈良県奈良市)	12 秋霞山も遠くになりにけり	11 網繕う漁夫の背中に春北風	10 春の波子等の足下洗いおる	9 海明けし磯やどかりのクライミング	8 漁了えて帰る港に夕霞	7 春一番岬も白くなりにけり	石倉 實 (三重県紀北町)	6 蜜蜂の訪ふ羽音のみ寺の午後	5 父目覚めず節くれの手に独活採りて	4 猫じゃれて又も倒せし猫柳	3 初づみの蕗の香溢る厨かな	2 四面楚歌寝ころんで聞く花便り	1 朽木も錆びし油槽も春がすみ	畑中一敏子(和歌山県有田市)
31 火きり火に一気に盛るどんどかな	原  茂美(和歌山県和歌山市)	30 咲きほこる薔薇に真珠の如き雨	29 花吹雪巫女は出仕の紅袴	28 卵とく箸音かろし春の朝	27 山磴に祢宜の木沓の音も秋	東優子(三重県紀北町)	26 水音の日毎豊かに蕗の薹	25 拝殿に鈴の高鳴り春を呼ぶ	奥川 純子(三重県紀北町)	24 時雨ても浦に華やぐ大漁旗	23 猫柳一間に灯す燻し銀	22 波の綺羅微塵に砕き鴨群るる	21 沖に出る鴨に序列のあるが如	樋口 里美(三重県紀北町)	20 瑞垣の幟さやかに七、五、三	19 うすれゆく靄に現はる花の雲	下村ツヤ子(和歌山県かつらぎ町)	18 古代米田んぼアートの稲の花	17 窯出しの弾む心や風光る

45 今昔の写真展あり秋の暮	4 冬ざるる登る人なき登山口	羽賀明(和歌山県海南市)	43 迷い込み時代感じる森の中	42 秋過ぎて春日の森のグラデーション	平本文(京都府木津川市)	41 桜貝大宮人の踏みし浜	40 子には子の小さき四手白魚汲む	39 幾尾根をつなぐ有田の花蜜柑	野口 城(和歌山県かつらぎ町)	38 原爆の日も人間よ人になれ	37 慰霊の日言の葉みはつ伊波普猷	福岡 悟(東京都八王子市)	36 産卵すとんぼに水のゑくぼかな	35 まつさらな朝日に辛夷芽吹きけり	34 星屑を加へ七夕飾りかな	33 朝の陽に嬰の肌いろ桜かな	露木 伸作 (千葉県千葉市)	32 紀国の樽酒並ぶ卯杖祭
59 58	57	56		55	54		53	52		51	50		49	48		47	46	
歳一ついただいて飲む福茶かな秋草や案内板の読めぬほど	山風に紅姦しき藪椿	寒明けの砂防ネットの風の跡	上ノ山陽子(和歌山県海南市)	風鈴や風の道また神の道	新緑の一葉ひと葉や神宿る	貞住 昌彦(東京都新宿区)	一列の黄色帽子や雲の峰	山里に訪ふ人もなし蜻蛉飛ぶ	野上 悦司 (和歌山県和歌山市)	簾巻く水平線の見ゆるまで	盆梅に古木の気品領しけり	前田 長徳 (和歌山県海南市)	青空に笑顔健やか初節句	桜花真白く包む子らの顔	荒井 初美 (東京都豊島区)	白梅や空を見上げる万華鏡	玉砂利の音高くなり寒明ける	江見 嚴(兵庫県相生市)

72 手土産に独活近況を少しだけ	湯上ひとみ(和歌山県紀美野町)	71 気負いなく流るる水は滝となり	70 金風や歴史の路地を曲がりゆく	舘 健一郎 (茨城県常陸太田市)	69 その下に父祖を眠らせ桜老ゆ	68 岬おぼろ海士の宮なる千度石	笠原 祐子 (和歌山県和歌山市)	67 老木の威儀を正して梅白し	66 寒雷や塔を貫く心柱	土江(祥元(和歌山県岩出市)	65 恋心秘めた風鈴鳴りにけり	64 風鈴の風の音色や膝枕	吾 亦 紅 (大分県国東市)	63 札受くる水門当番水温む	62 北斉の浪明らかに春怒涛	新井たか志(神奈川県大井町)	61 桜満開追悼番組の笑ひ	60 花筏人のこころも浮かばせて	杉山 太郎(神奈川県横浜市)
87	86		85	84		83	82		81	80		79	78	77	76	75	74		73
去り際の美しき人葛桜	二メートル間を開けて青き踏む	砂山 恵子(愛媛県西条市)	親つばめ迷ひ込みたる座敷かな	病む母を頼み逝く父虎落笛	前田 汐音 (和歌山県海南市)	この風と決めて遠くへ翔ぶ柳絮	天網悪をゆるさぬと水澄めり	板敷 清光 (大阪府泉南市)	青葉闇春日の森の深さかな	春日社の絵馬にあづけしわが春愁	林 游美子 (京都府京都市)	海よりのカフェの日溜り日向ぼこ	木守柿鴉の来たりて突つきけり	つぎつぎと風透きとおる新樹かな	老鶯のしきりに鳴ける武家屋敷	立ちこぎのペダルは軽し風光る	雨やどり枝垂桜の影の中	坂口 和代 (神奈川県茅ヶ崎市)	里山の花守りとなりIターン

100 春雷や絵解僧侶の青頭	澤禎宣(和歌山県海南市)	99 山峡も空も含みて春風車	98 花満開産土参り佳き日なり	佐藤 富子 (和歌山県海南市)	97 花片を籠に花咲爺の如	96 庭焚火いつもの顔の出揃ひぬ	天倉 都(和歌山県和歌山市)	95 沢釣りの天蚕糸きらりと春の風	94 山桜新人教師迎へけり	嶋 良二(愛知県日進市)	93 カタカタと母のミシンに春の風	92 春ショール綿の香りとツナサンド	三津野真緒(大阪府東大阪市)	91 ダム湖より溢れ落ちたる花筏	90 天よりの嘆きの雨か涅槃寺	太田一妙子(和歌山県和歌山市)	89 秋夕焼サーファー遠く由比ヶ浜	88 黒葡萄ひと粒ごとに光あり	太田舞(東京都大田区)
	113 改札と平行に待つ燕の巣	112 草木に明るき少女風光る	花月 大師(東京都板橋区)	Ⅲ 母素振り見せず厨の春の風邪	10 花見留守母不機嫌の台所	小池 成功(千葉県佐倉市)	109 母と子の尽きぬ話や帰省の夜	108 八月や子らに昭和を語り継ぐ	中浴 智美(和歌山県和歌山市)	107 子を生んでハエさえ打てぬ弱き母	106 見上げれば青空に浮かぶハナミズキ	佐藤 礼代 (千葉県千葉市)	105 山笑い還るいのちに花飾る	14 落ち椿尚も咲かんと天仰ぐ	馬淵 凌(富山県射水市)	103 風鈴やビルの谷間の朧月	102 玉串の捧ぐごと鳴く風鈴や	平田由香里(新潟県新潟市)	10 水面の空にた奔る上り鮎

121 120 119 118 117 116 115 114

家ごとの灯りの色や朧月 初蝶や人生ゲーム 手洗ひの列 春夕焼すべり台で母を待つ に並ぶ子ヒヤシンス の賽を振る

伊

藤

京子

(愛知県東浦町

風青し紀伊 の空山 田海青し

中島

紀生

(和歌山県紀の

市

散らさじと手折る盛りの紫木蓮

天地へ達する枝垂桜かな 炎天の紀の川を汲む散水 ゔ 車

窪田

か

江

(静岡県富士市

影ひとつ絵踏の島の正午なり 夜桜の白きひとひらまたひとひら

123 122

虹を超え未知なる世 周 冠 界へ飛び立とう 廷(台湾新竹市

タル舞う三朝温泉縁結び 顏 貞 宜 (台湾桃園市

125 124

ホ

飛 初時 び 魚や津波の 雨コアラを癒す天の涙 如く押し寄せる

127 126



## 選者詠草



山笑ふ御虎子の嬰の蒙古斑鳥 井 保 和

みどり児を転がしてゐる天瓜粉



小阪南枝

葉桜となりて茂みに紛れけりウイルスに篭もりし春を惜しまばや



笠

野

Ŧ

居

顔に残る金箔御開帳アッツ桜戦なき世を花盛り



- 12 -

子には子の小さき四手白魚汲む

花片を籠に花咲爺の如井 保 和選

天

倉

都

(和歌山市)

野

 $\Box$ 

城

(かつらぎ町

鳥

阪南枝選

小

水音の日毎豊かに蕗の薹寒雷や塔を貫く心柱

笠

野

千

居

選

奥土

川 江 純 祥

子 (紀北町)

木土幡江

初景色画く一色の古代墨

寒雷や塔を貫く心柱

幅 狂嘉 祥

元

(岩出市)

子(あわら市)

- 13 -

### 短

### 歌



海南文化協会邦楽研究部による演奏

明 賞

きしめんを名古屋駅にて食みし

その遙かなる二人の時間屋駅にて食みし旅

森

**神殿に風とのコラボ百の風鈴酷暑の日茅の輪くぐれば** 

浄

賞

悦

子

香 代

下

野

### E 賞

着ぶくれて背負う荷物にビル灯り

直 賞

洗濯の白いシャツから透かし見る

柔軟剤の香る夏空

勤

賞

戦時下の夏

赤襷巻きし梵鐘供出に村人送る

島

ほのぼの上る八十路の坂を

さ き

森

田

瑠璃子

妻

木

伊佐子

# 人麿賞(春日の森賞)

戦中に生まれし三女落胆の祖母の顔たつわが誕生日

(春日神社の神様の子孫に柿本人麿がいます)

\*日社社の社林の二子に本之ン思えしまで、

人麿賞は春日神社より出されます。

浜

田

佳世子

外つ国の人も日本に歌を詠む三十一文字に流るる時間	病院の予約日を記すカレンダー大安とあり何故か落ちつく	ウイルスに卒業式無き学舎に別れを惜しむ生徒ら集う	刻む音煮る音聞けば厨辺は小さき幸の音に満ちいる	九十四の師匠が走りゐる限り吾マラソンをリタイヤ出来ぬ	海外といえば満州だけの叔父世紀の幕を百歳に閉ず	門開けて何時でも来てねと口癖の友は逝きたり門は閉まりき	妣の歌載りたる歌集ひもとけば吾を案ずる歌の多かり	間違いの電話が一度ありしのみ日暮れてひとりの雨戸を閉じる	四月とふやはき夕べを帰りゆく自粛に終りしさくらの道を	踏みしだく人こそあらね路傍なる草の香著し春の廃線	天をつく樅の樹上ゆひそやかな星の流るる通い路のあり
本	原	野	千	兵	中	廣	松	鯵	高	小	瀬
田	見	上	葉	野	尾	田	田	本	岡	竹	戸中
花	慶	恵	۲ ا		加	明	容	3	淳		内
枝	子	子	ひとみ	勉	代	代	典	ミツ子	子	哲	光

19 満潮の河口に跳ぬるは鮬らし銀鱗光り夕闇せまる18 草芽吹く雪解け水を糧として大いなる地は緑奏でる	17 かわいらし花咲かせたる雑草もむしるとなれば命に迷う16 思い知る記憶の悪さ今日からは気をつけますと言い訳をする	天性か並べば前への競走馬新人賞を狙いいななく	4 蘭を好く叔父は語りき満州の国花に抱きし若き日の夢	13 海外といえば満州だけの叔父世紀の幕を百歳に閉ず	12 店頭のタイムセールの人に似て忙しき動きおばちゃん目白	11 赤あかと口の光れる狛犬よ初日に向かい一声吠えしか	10 オキナワヒロシマナガサキフクシマよ人間なんだファイア・ス	9 人生の半分以上ことごとく己を忘れてただのほほんと	8 雪ウサギ足跡の先キタキツネ微動だにせずこちら見て居り	7 春を待つ幼児のごとく心揺れ透析後ゆく遊びを思う	6 スーツ着てピアノ上手な拓ちゃんが僻地教師を目指すこの朝	5 遠き日の母の菱餅あられ餅あはき三彩が飾る雛壇	4 一心に生きているよと鳴く蝉に喧しいとは吾は言うまい	3 門開けて何時でも来てねと口癖の友は逝きたり門は閉まりき	2 春めきて誘う二度寝の雨の音恋猫鳴きて軒下通る	1 少女らの春の服より歌声のさくらさくらと風に乗り来る
浜田佳世子(	東家 芳寛	木下 晴生		中尾加代(	Ц	上田康彦(	/・ストーム	福岡悟(	9	清水 将一	9朝	前田 汐音 (		廣田 明代		山田・暁美(
(和歌山県美浜町)	(佐賀県佐賀市)	(京都府京都市)		(和歌山県和歌山市)		(千葉県四街道市)		(東京都八王子市)		(愛知県扶桑町)		(和歌山県海南市)		(和歌山県和歌山市)		(和歌山県紀の川市)

38 母に義母看取りて年はめぐり来しそれぞれのおくつきに彼岸花咲く	37 那智の滝背にして写真の亡父の旅羽織袴にトランクさげて	36 照葉の春日の森の霊気をば吸はむと吾はマスクとるなり	35 若竹の親に負けじと天を突く不易の気迫われも浴さむ	34 ウイルスに卒業式無き学舎に別れを惜しむ生徒ら集う	33 ドクターの指示に従い散歩する休み休みに四千歩程	32 強張りて放蝶のときを待つ子らのアサギマダラと翔ばむとすなり	31 何もかも悲しかったと十歳が肩叩きの唄知らず逝きたり	30 軒先の忘れし風鈴不意に鳴る覚めて思へりひとりの進退	29 スマホみる人ら大方マスクして夜の電車は穀雨を走る	28 雪残る町の花屋のドアを押し暖色満つる春を見にゆく	27 刻む音煮る音聞けば厨辺は小さき幸の音に満ちいる	26 城山を下れば春の畑なり金柑エンドウ大根の花	25 踏みしだく人こそあらね路傍なる草の香著し春の廃線	24 マラソンのレースに足を痛めれど目線上げろと自身励ます	23 九十四の師匠が走りゐる限り吾マラソンをリタイヤ出来ぬ	22 曼珠沙華にくれない零し離れゆく火星はやがて星のひとつに	21 天をつく樅の樹上ゆひそやかな星の流るる通い路のあり	20 戦中に生まれし三女落胆の祖母の顔たつわが誕生日
<	寒川 靖子(香川県丸亀市)		貞住 昌彦(東京都新宿区)		野上 恵子 (和歌山県和歌山市)		森元 英子(山口県周南市)		森元 輝彦(山口県周南市)		千葉ひとみ(和歌山県橋本市)		小竹 哲(兵庫県宝塚市)		兵野 勉(和歌山県湯浅町)		瀬戸内 光 (山口県光市)	

57 菜の花のそよぐ川べりに人無くも碧の水面に小鮒は群れる	56 時鳥筒鳥鳴く山十数キロ八十間近歩くを得たり	55 夜店より金魚掬ひて鉢に入れ机の上に十年経たり	54 むらさきの花一斉に空高く掲げて桐の卯月の一樹	53 四月とふやはき夕べを帰りゆく自粛に終りしさくらの道を	52 産直に叔父と邂逅また縁近況聞き合ひ青菜もレジ籠	51 産直に吾の名呼ぶありはて誰と見れば小松菜並べゐる叔父	50 ケーキでも買うかと夫は振り返る四十年目の私の祝い	49 見下ろせば蒼き大地に区切り無く鶴まっすぐに雛育つ地へ	48 爽やかな緩急自在筆の跡安らぎ覚ゆ墨の濃淡	47 洗濯の白いシャツから透かし見る柔軟剤の香る夏空	46 淡々と地球は公転・自転する億年同じコロナ禍の今も	45 お馬さんした翌日はしみじみと内出血せる膝小僧洗ふ	4 歩行器をたよりによろと息をつき病の山坂今回もあゆまむ	43 九十すぎ歳に不足はなけれども他人にうつすコロナ恐ろし	42 風鈴の風の高さに聞く音色恋し懐かしその膝枕	41 ウイルスの感染恐れ校門を鎖す鉄扉に春の雪降る	40 家の前の道の辺の草刈りくるる人らに運ぶ熱きコーヒー	39 病院の予約日を記すカレンダー大安とあり何故か落ちつく
塚田 悠太 (大阪府東大阪市)		大沼二三枝(山形県鶴岡市)		高岡 淳子 (和歌山県和歌山市)		川久保早苗(和歌山県和歌山市)		野村 貞江 (山口県周南市)		妻木伊佐子(和歌山県海南市)		岡﨑美代子(東京都杉並区)		杉本 靜子 (和歌山県海南市)		原 ひろし (大分県国東市)		原見 慶子 (和歌山県日高川町)

75	74	73	72	71	70	69	68		67	66	65	64	63	62	61	60	59	58
薄紅と薄髪散らす春風の方位を除けて背中押される	間違いの電話が一度ありしのみ日暮れてひとりの雨戸を閉じる	海棠の今年も咲ける路地を行く生家の庭にもありし花なり	八畳を華やかに変え一枝の石楠花コップに深紅をひろぐ	口づけをはなして月の上りけりいよいよ深き海の郡青	赤襷巻きし梵鐘供出に村人送る戦時下の夏	坂道を一歩一歩に力入れわれの手を引きのぼる四歳	堅雪のりんご畑の剪定へ吾も梯子も三尺高し	スギ花粉運んで行ってくれぬかゼフィロス	ゼフュロスよコロナウイルス、	夭折の皇子を偲べば初夏の藤白峠に咲く遅桜	悲話偲びゆく人あるに供ふらし皇子の碑に挿す白百合の花	酷暑の日茅の輪くぐれば神殿に風とのコラボ百の風鈴	Tシャツに初夏の風ふくらませ自転車を漕ぐどこまでも青	エンドウの蔓は掴まるすべの無く隣同士で絡み合いたり	きしめんを名古屋駅にて食みし旅その遙かなる二人の時間	米を終え麦まき始むる古老たち澄んだ空気に声交わしあう	江戸川を水のけぶりのおおう朝見えぬ奥より草笛とどく	黄金の魚の泳ぐ昼下がりただ水琴の音のみわたる
菱田		鯵本、		龍田		森田岡		斉藤			野入		森		下野		山本	
清行		ミッ子		早苗		瑠璃子		隆			博史		悦子		香代		明	
(大阪府和泉市)		(京都府舞鶴市)		(和歌山県田辺市)		(和歌山県海南市)		(青森県板柳町)			(和歌山県和歌山市)		(和歌山県海南市)		(和歌山県湯浅町)		(千葉県市川市)	

94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76
人は皆笑顔の奥に数多なる悩み抱きて生きると知れり	妣の歌載りたる歌集ひもとけば吾を案ずる歌の多かり	人は皆やさしさの壺抱きいるその壺傾げつつ吾も歩まん	チューリップ紅は紅色白は白取り替えられぬ尊さに咲く	度忘れを紛らかしつつ繕いて辻褄合わす私はピエロ	山道を誰も通らぬ安けさにヤッホーなどと叫んで見たり	声立てて笑ふ日のあれ妹の刹那のごとき日日を思へば	外つ国の人も日本に歌を詠む三十一文字に流るる時間	菜の花に光あまねく降り注ぐコロナの危機を知るや知らずや	京都御苑のさくらのビデオに涙するコロナ疲れのこころはらはら	老いて尚私好みの冬帽子日日褪せてゆく思い出ひとつ	着ぶくれて背負う荷物にビル灯りほのぼの上る八十路の坂を	畦道に残りし孫の足あとをカメラにしまふ背中のうすさ	傷つけるべきぢやなかつた春キャベツ親指だけでたやすく割れて	手紙添え想い伝えるチョコの箱小指でずっと彼の名なぞる	春過ぎて吾声だけがこだまする役目を終えた広き食卓	クマ蜂の羽音ブンブン場所告げる寄り道の庭藤花たわわ	若緑艶めく力地に充ちて紀伊のドライブ鼻歌ルルルン	紀伊路ゆく景色は太古と変われどもにおいは同じ春の日の森
			松田		宮﨑		本田		木村、		島		寺内の		小菅		宮地	
			容典		トシミ		花枝		い く 子		さつき		ゆ り 子		浩之		浩美	
			(和歌山県和歌山市)		(和歌山県海南市)		(和歌山県田辺市)		(和歌山県かつらぎ町)		(和歌山県白浜町)		(千葉県千葉市)		(新潟県新潟市)		(大阪府和泉市)	

113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95
しゃがみ込み児の高さで見る世界には三十四年前のたんぽぽ	朝日差す児の頬ほんのり赤みさしそっとカーテン閉める日曜	夕立に打たれたトマトの露のように燃える命の君に会いたい	さくらさくら振りさけみればあなたかと思った、なんだ春の訪れ	柔らかなこの子の腹を切るという告げる医師と病室の桃	触れ合うなソーシャルディスタンスといわれ哺乳類には辛い世の中	疫病に怯える世界生きるとは死へ向かいつつ肉屠ること	秘密だと誘われ行くは暗き沢空は一面蕗蕗蕗が	枯れ草の合間に赤き体持つキトピロ撫でる風は丸くて	その昔紀州木の国木の香り紀の川上に先祖住みゐし	背筋伸び柱状節理のやうな人エレベーターと平行に立つ	桜過ぎ散歩路木下明るみて皐月は新たなドラマ始める	和歌山城枝垂れ桜が咲き匂うそれでも友は屋体の団子	雷雨去りしらっと輝く太陽にずぶぬれの蓮がウインク放つ	青き葉に青き毬栗身を潜め胎児のごとく披露目の日を待つ	哀しみや歓ぶことの冥利ありわれに愛しき生といふべく	二人してお膳を飾る初がつお年金暮らしのエンゲル係数	物憂げに少女は何を思いいるルノアール描く「少女イレーヌ」	暮れ泥む空に夕月かかりいて春宵一刻藤花白し
	佐藤 礼代		平山友里夏			小川かをり		服部明日檜		浦木 逸子		西山 五鈴		木暮由利子		山田 泰生		
	(千葉県千葉市)		(秋田県湯沢市)			(東京都狛江市)		(東京都大田区)		(和歌山県橋本市)		(和歌山県海南市)		(群馬県渋川市)		(和歌山県白浜町)		

## 選者詠草



## 唐津麻 貴 子

ジャンボ籤買う列避けて歩みゆく夢なきわが影踏みつつ詫びし Щ 一のあなたより望めばここが山のあなた幸いは雲に乗り浮遊する



## 石井和子

生くことの数多の知恵は意識下に時代の川にゆるり漂ふ 永遠の回帰絶ちたる流星を沈めし海に還らむか吾も



## 井谷 まさみち



拓かれし丘埋めたる家々の滅びに向かふ加速度も見ゆ 視野閉ざすまでに勢ふ新緑の庭に小鳥の声睦び合ふ

### 唐津麻 貴 子 選

赤襷巻きし梵鐘供出に村人送る戦時下の夏

エンドウの蔓は掴まるすべの無く隣同士で絡み合いたり

下

野

香

代

森

田

瑠璃子

### 石 井 和 子 選

四月とふやはき夕べを帰りゆく自粛に終りしさくらの道を

着ぶくれて背負う荷物にビル灯りほのぼの上る八十路の坂を 島 高 岡 さ

### 井谷 まさみち 選

戦中に生まれし三女落胆の祖母の顔たつわが誕生日

きしめんを名古屋駅にて食みし旅その遙かなる二人の時間

下 浜 野 田 佳世子 香 代

### - 26 -

淳

子

つ

き

## 風鈴まつり 〔短歌・俳句会〕

ごとが祈願されるまつりです。 に吊るされ、 短冊に短歌や俳句が書かれた風鈴が、 短歌・俳句などの芸能上達祈願や色々な願 春日神社拝殿

### [応募要項

) 応募締切 八月五日頃迄にお願いします。

)応募方法 風鈴の短冊に作品と氏名を書き事務局宛に 風鈴と共に郵送下さい。

展示場所 展示期間 春日神社拝殿 八月一日~八月十五日

こ出品を心よりおまちしております。 今年の夏も多くの方々のご参加を賜 わり度く、 皆々様の

出品者全員に短歌・俳句作品集「風鈴まつり」を贈呈。

事務局 〒六四二-00111

和歌山県海南市大野中五七七—

発

電話 〇七三一四八三一 七五四 七

春日 神社社務所 (三上)

# 熊野·高野」短歌·俳句大会作品募集

高野の部 (高野山、 (熊野古道関連)=六点まで。 高野街道関連)=六点まで。

(合計十二点まで。

未発表作品。楷書で丁寧に。)

令和三年二月~四月末日 二点 (一組) 千円 原稿用紙または便箋に住所、氏名、電話番号を明記 (作品に同封。切手不可。) (当日消印有効

応募 出点 )応募締切

和歌山県海南市大野中五七七一一 〒六四二-00111

(春日神社内

選

☎○七三—四八三—七五四七 熊野・高野」短歌・俳句大会係 熊野の部 俳句の部 短歌の部 水本 光・杉谷睦 神社本庁統理賞=一名 桑島啓司・木下敦子

熊野本宮大社賞=各一名 和歌山県神社庁長賞=一名

熊野那智大社賞=各一名 熊野速玉大社賞=各一名

丹生官省符神社賞=各一名 丹生都比売神社賞=各一名 高野山金剛峯寺賞=各一名 和歌山県神社庁長賞=一名

の部

神社本庁統理賞=一名 松代王子賞=各若干名

金剛院賞=各若干名

風鈴まつり 参詣」を贈呈します。 者に通知します。応募者全員に作品集「やまなみ (八月一日~十五日) にて発表。受賞

※熊野の部と高野の部を同じ用紙に書かないようにお願いします。

- 27 -

### 第 二十三 回

# 春日万葉の森歌垣(短歌・俳句)大会募集

### 大 会 要 項

●募集内容 ●応募締切 )応募規定 加料 現金書留または郵便定額小為替で作品とともに同封 令和三年二月~四月末日 (当日消印有効 性別、電話番号を楷書で記入。 四季を通じた作品で内容は自由。(未発表のもの 二首又は二句(一組)一、〇〇〇円 左半分に郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、 用紙 (A4) 右半分に作品 |一組(二首又は二句)| =三組まで可

先 和歌山県海南市大野中五七七--〒六四二-00111

(切手不可)

応

☎○七三—四八三—七五四七 「春日万葉の森歌垣大会」事務局まで。 (春日神社社務所内 三上 宛)

優秀賞(短歌俳句各三名)…賞状+楯 人麿賞・一入子賞…賞状

大 賞 (短歌俳句各一名) …賞状+楯

賞

(短歌の部) (作品集「神奈備」一冊を贈呈)全作品収録 石井 和子、井谷まさみち、唐津麻貴子

●選

者

笠野 千居、小阪 南枝、鳥井 保和 (五十音順

立図書館、

図書館・日本現代詩歌文学館並びに和歌

この作品集「神奈備」は、

東京の国立

山国 県

風鈴まつり(八月一日~十五日)にて発表。受賞者 に通知します。 右記の賞とは別に選者賞有り 応募者全員に作品集「神奈備」を贈

●

表

# 寄贈句集・歌集など

星雲

鳥井 保和

桑島

啓司

「きのくに54」

滝山

和歌山県歌人クラブ

皆様には賞状等を郵送にてお届け致します。 皆々様にはご了承賜り慶く存じます。入賞の ております。 致しますので、たくさんのご応募をおまち 演奏などが取りやめにさせていただきました。 行により誠に残念ながら表彰式並びに邦楽の また、「風鈴まつり」は例年のように開催 今年は新型コロナウイルスという疫病の

もご覧いただけます。 http://kasuga-kainan.com/

全作品は春日神社のホームページで 同紀南分館に納本されます。

令和二年八月一日発行

春日万葉の森歌垣

(短歌・俳句)大会事務局 春日神社社務所内 (三上) 和歌山県海南市大野中五七七—一 〒六四二-00111 〇七三 (四八三) 七五四七